

## 令和3年度第1回福岡県観光審議会 議事概要

### 1 開催日時・場所

(1) 令和3年11月30日(火) 15:00~17:00

(2) 福岡県庁 行政棟10階 特9会議室

### 2 議題

(1) 会長任命、副会長指名

(2) 会議の公開について(資料1)

(3) 福岡県観光審議会の概要・スケジュールについて(資料2、3)

(4) 令和3年度における観光振興の取組状況について(資料4)

(5) 福岡県次期総合計画において展開する観光振興施策の方向性について(資料5)

(6) その他

### 3 議事概要

別紙のとおり

## 開会

(事務局)

それでは定刻となりましたので、ただ今から「第1回福岡県観光審議会」を開催いたします。本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。本日はよろしく願います。

まず、本審査会にご参加頂きます、委員の皆様をご紹介させていただきます。

尚、本来であればここで皆様に委嘱状の交付をさせていただくところでございますけれども、本日は議事の時間が限られておりますので、皆様の席にお配りしております資料と一緒に委嘱状を置かせて頂いております。ご了承いただきますようお願いいたします。

<委員の紹介>

以上、委員総数13名中、本日の出席者数は11名でございますので、福岡県観光審議会規則第8条第2項の過半数の出席の要件を満たしており、当審議会は有効に成立していることをご報告いたします。どうぞよろしく願います。

続きまして、開会に当たりまして、商工部観光局長からご挨拶申し上げます。

(事務局)

皆さんこんにちは。一言、会議にあたりましてご挨拶申し上げます。まずは、委員の皆様方にはそれぞれの御役職でご多忙のところ、観光審議会の委員を快く引き受けていただきまして、誠にありがとうございます。委員の皆様方には専門分野での経験、ご識見を踏まえた、私どもの観光振興に対する忌憚のないご意見をいただければと期待しております。どうぞ2年間よろしく願います。

さて、コロナ禍における本県の観光の現状でございます。ちょうど2年前、ラグビーワールドカップで盛り上がったとき、福岡県も非常に観光が盛り上がりを見せまして、県内の延べ宿泊者数は初めて2,000万人泊を超えました。しかし、昨年はこの2,000万人泊の約半分、約1,050万人泊まで半減いたしまして、県内の観光業は非常に大きな痛手を受けております。また、外国人観光客につきましても、ワールドカップを機会に欧米豪からも、という期待をしていたところでしたが、全国と同様に昨年はほぼ皆減に近い状況になっております。

本県の観光振興は、この審議会でご議論いただきまして、観光振興指針を策定させていただいております。その中の4つの柱に沿って、観光振興施策を進めているところでございますが、コロナ禍において、この柱だけでは進められないということで、昨年この審議会でご意見をいただきながら、コロナ禍における取組ということで、感染防止対策の徹底、衛生情報の発信、デジタルプロモーションの加速化、観光振興の回復の鍵を握る日本人の国内旅行需要の喚起、これを決定して取り組んできたところでございます。後ほど詳しい説明をさせていただきますと思っております。

本県もコロナ感染症の拡大によりまして、昨年4月に初めて緊急事態措置が発出されまして、これまで4回緊急事態措置が発出されたところでございます。コロナ感染症に伴う、移動の自粛、行動の自粛、飲食店での時短営業、そういった制限がかかっていましたが、10月14日に福岡コロナ警報がやっと解除されまして、15日からは飲食店でのお酒の提供、また、県民向けの観光キャンペーンも始めさせていただいたところでございます。10月15日

から行動自粛は解除されて、その後感染者数が増えるのではないかと心配されたところですが、現時点では1桁あるいは、2桁になっても10数名で推移している状況でございます。そういった状況で徐々にではありますが、観光地にも明るい兆しが見えてきたと感じております。

さらに、今月19日には政府が観光の経済対策ということで、1兆3,000億円超の予算を組まれるということも発表され、またGoToについても1月から再開ではないかと思込みが立てられております。

新たな変異株でありますオミクロン株、これは最も警戒するレベルが高いとされておりました、その感染症の拡大への対策というのは当然必要ですけれども、ワクチン検査パッケージも活用し、感染リスクを軽減させながら、観光需要の回復に向かって、私どももしっかり取り組んでいきたいと思っております。

一方、外国人観光客ですが、ビジネス目的の入国規制が11月8日から解除されたところではありますが、これもオミクロン株の感染を抑止するというところで、本日からすべての外国人の新規入国が停止され、当面1か月ということでございますが、水際対策の強化が措置されております。また、国連の世界観光機関の専門委員の方々のご意見では、2019年以前の国際的な観光需要が戻るのには2024年ではないか、といったご意見も出ております。インバウンドについてはなかなか見通せないところがございますが、数年後には回復してくることを期待しながら、私どもも今できることをしっかり取り組んでいきたいと思っております。

県では、ウィズコロナ・ポストコロナ時代に向けまして、選ばれる観光地を目指して、ハード・ソフト面で環境整備を進めてまいりたいと考えております。県の取組につきまして、審議会の皆様方からの忌憚のないご意見、また熱心なご議論をいただければ幸いと思っております。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

<事務局出席者紹介>

続きまして、議題1「会長任命、副会長指名」でございます。

## **議題1 会長任命、副会長指名**

(事務局)

参考資料1として、本審議会の規則をお配りしておりますが、規則第6条第1項の規定によりまして、本審議会の会長は知事が任命することとなっており、福岡県観光連盟の林田会長をお願いしております。林田会長、ごあいさつをお願いいたします。また、規則第6条第3項の規定に基づき、副会長の指名の必要がございますので、ご挨拶と併せてご指名もお願いいたします。よろしく願いいたします。

(会長)

みなさんこんにちは。福岡県観光連盟の林田でございます。

観光連盟は、市町村や観光協会、宿泊・交通分野の民間事業者など約190の会員の皆様

で構成する公益社団法人でございます。県はもとより、県内市町村や観光協会などと緊密に連携いたしまして、県の観光指針に基づき観光振興事業を実施する法人であり、「情報発信」と「プロモーション」、「基盤整備」、この3つを事業の柱として取り組んでおります。

今月4日には、観光庁により地域連携DMO（観光地域づくり法人）の候補法人として登録が認められました。今後、本登録に向けまして、組織体制や会員の皆様との連携を強化していきたいと考えております。そして、地域連携DMOといたしまして、観光協会、地域DMO及び民間事業者等の地域の多様な関係者と連携いたしまして、国の支援メニューも活用しながら、観光資源の磨き上げや受入環境整備に取り組む所存でございます。

さて、本日は新しい委員の皆様となって初めての審議会でございます。少し落ち着いたとはいえ、まだまだ油断できないコロナ禍の中、こうして皆様と顔を合わせて開催できましたことを大変嬉しく思っております。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域の観光産業は深刻な影響を受けております。この立て直しを図ることが急務でございます。また、ウィズコロナ・ポストコロナ時代におきましては、大人数や混雑を避ける、自然の中でアウトドアを楽しむなど、旅へのニーズが変化をしてくれております。そのような中、当審議会では、福岡県における現在の観光振興の取り組みや、福岡県次期総合計画において展開する観光振興施策の方向性について、委員の皆様それぞれのお立場からご発言をいただければと思っております。

また、県においては当審議会での意見を踏まえ、コロナ禍の厳しい状況を乗り越えて、第二次福岡県観光振興指針に掲げました「持続可能な観光先進県福岡」という目指す将来像に一步でも近づくため、より一層の観光振興を図っていただきますようお願いいたします。

委員の皆様からは、忌憚のないご意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞ積極的なご意見の方よろしくお願い致します。簡単でございますが、ご挨拶とさせていただきます。

先程、事務局から副会長について説明がありましたので、副会長を指名する必要がございます。副会長には、九州産業大学地域共創学部教授であり、県内自治体の観光振興に深く関わっておられます、大方委員をお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

<異議なし>

ありがとうございます。それでは、大方委員を副会長とさせていただきます。大方副会長、前の席へお移りください。

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、これ以降の進行は林田会長にお願いすることといたします。林田会長よろしくお願いいたします。

## **議題2 会議の公開について（資料1）**

## **議題3 福岡県観光審議会の概要・スケジュールについて（資料2、3）**

(会長)

それでは、お手元の議事次第に沿って進めてまいります。まず議題の2「会議の公開」、議題の3「福岡県観光審議会の概要・スケジュールについて」、事務局から続けて説明をお

願いいたします。

(事務局)

それでは議題の2「会議の公開について」ということで、お手元の資料1をお願いいたします。座って説明させていただきます、よろしくお願いいたします。

それでは、資料1をご覧ください。福岡県観光審議会の公開についてというものでございます。この審議会の公開の方法につきましては、原則といたしまして、1.会議の傍聴及び取材は、審議会の運営に支障をきたさない範囲において認めることとしております。2.会議資料は傍聴者および取材者に配布するとともに、県のホームページで公開することとしております。3.会議の議事概要は無記名のものを作成いたしまして、審議会終了後、速やかに県のホームページで公開することとしております。4.開催日程は、県ホームページにおいて、事前に周知することとしております。5.以上にかかわらず、会長が必要と認めるときは会議、会議資料、議事概要の全部又は一部を非公開にすることができます。6.公開に関し必要な事項等については、お手元の参考資料でも、1と2-2というものがございますけれども、福岡県観光審議会の公開に関する要領及び福岡県観光審議会傍聴要領の定めによることとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、議題3「福岡県観光審議会の概要・スケジュールについて」でございます。お手元の資料2、それから資料3をよろしくお願いいたします。まず資料2「福岡県観光審議会について」でございます。

1.設置の根拠といたしましては、福岡県観光審議会規則の通りとなっております、これは参考資料1とはまた別にございまして、そちらの規則によるものとなっております。

2.主な審議事項といたしましては、知事の諮問に応じまして、調査審議、意見具申をしていただくということになりますけれども、抜粋となりますが、そこに4つのポツを挙げさせていただきます。観光資源の調査研究保存に関すること。観光地及び観光ルートの選定、並びにその開発計画に関すること。観光地の宣伝、観光客の誘致及び接遇の研究改善に関すること。その他、観光について知事が必要と認めること、などでございます。この部分につきましても先ほどご説明いたしました参考資料1の規則に全て記載されておりますので後ほどご確認をいただければと思います。

3.審議会委員の任期でございます。基本的な任期といたしましては、2年間ということになりますけれども、委員にご就任いただくときもご説明をさせていただきましたとおり、今回の審議会に関しましては、本日2021年11月30日から2023年3月31日までの16ヶ月間ということをお願いしております。

4.審議会の開催回数についてでございます。本年度につきましては、今回も含め2回を予定しております。例年1回から2回開催させていただくものということになっております。続きまして、資料3「令和3年度福岡県観光審議会スケジュール案」でございます。第1回審議会、本日11月30日でございます。第2回の審議会につきましては、令和4年の2月の中旬頃予定をしております。議題といたしましては、ただ今の案でございますけれども、令和3年度における観光振興の取り組み状況について、それから令和4年度における観光振興の重点施策についてさせていただきたいと今の時点で考えているところでございます。説明は以上でございます。

(会長)

ありがとうございました。

何かご質問等ございませんか。

#### 議題 4 令和 3 年度における観光振興の取組状況について（資料 4）

(会長)

それでは、続きまして、議題の 4 に移ります。本審議会において、福岡県の観光振興に必要な取り組みを検討するにあたり、まず初めに福岡県観光振興指針、本県観光の現状と課題について把握する必要があります。その辺りも踏まえまして、事務局から議題 4 の説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、お手元の資料 4 をお願いいたします。「令和 3 年度における観光振興の取り組み状況について」でございます。1 ページ目をご覧ください。本日の目次を示させていただきます、この目次に沿って説明をさせていただきたいと思っております。

##### 1 第二次福岡県観光振興指針（2020 年度～2023 年度）について

それでは、2 ページ、お願いいたします。第二次福岡県観光振興指針についてご説明をいたします。

本県では、地方創生の観点から観光を重要な産業と位置づけまして、県内各地に観光客を呼び込み、消費と雇用を生み出すため、福岡県観光振興指針を策定いたしまして、観光振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進しております。

第二次指針につきましては、コロナ感染が拡大し始めた 2020 年 3 月に策定したもので、2020 年度から 2023 年度の 4 年間における方針について定めたものとなります。まず、本県観光の目指す将来像といたしまして、「持続可能な観光先進県」という将来像を示して設定しております。これは旅行消費額の継続的な拡大や、地域活性化、雇用の創出、また住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり、観光産業の成長と地域社会の調和などを目指していくものとなっております。

また、基本方針といたしまして、1 つ目、各種データに基づいた戦略的なインバウンド誘客による旅行消費額の拡大。2 つ目、観光資源の磨き上げや活用などによる旅行者の県内各地への来訪促進。3 つ目、世界的なデジタル化やモバイル化の風潮を踏まえた、デジタルマーケティングの推進。4 つ目、観光産業の成長と地域社会の調和が図られた持続可能な観光の推進という 4 つの方針に基づきまして、施策を推進していくこととしております。

この基本方針に基づいて実施する施策につきましては、4 つの柱に沿って実施することとしております。1 つ目の柱が受入環境の充実です。すべての旅行者が快適に楽しめる環境整備を行うこととしております。具体的にはアジアの玄関口として誰もが快適に旅行を楽しむ環境を整備するため、多言語案内や通信環境の充実といった基盤づくりを推進するとともに、インバウンドの増加を目指すため、国際航空路線の誘致に取り組むこととしております。

次に 2 つ目の柱は観光資源の魅力向上です。旅行者の県内各地への来訪を促進するため、

食や歴史、文化といった福岡県ならではの魅力ある観光資源の発掘や磨き上げに取り組むとともに、サイクリングをはじめとしたアクティビティや農林漁業体験、スポーツ等と観光を組み合わせた体験交流、滞在型の観光振興に取り組むこととしております。

3つ目の柱は効果的な情報発信でございます。本県の認知度向上や東南アジア、欧米豪等からのさらなる誘客を促進するため、SNS や旅行専門ウェブサイトなど、それぞれの国や地域で影響力のあるデジタル媒体を活用したプロモーションを推進することとしております。ターゲットに合わせた情報発信や九州各県、県内市町村、観光協会、経済団体等と連携して造成した広域観光ルートの情報発信を行うこととしております。

最後に、4つ目の柱は観光振興の体制強化です。観光振興の施策を戦略的に進めるため、客観的なデータに基づいた施策立案体制を確立するとともに、観光関連事業者や観光ガイドなどの人材育成を行うこととしております。また、九州観光推進機構との連携や宿泊税を活用した市町村への財政的支援を行うこととしております。

次のページをお願いいたします、3ページでございます。本指針における数値目標 KPI につきましては、外国人入国者数や延べ宿泊者数などの増加を目指すものとして設定しております。現状については次の項目でご説明をさせていただきますが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりまして、この目標値の達成状況は極めて厳しい状況ということになっております。また、この3ページの下のところになりますけれども、4つの施策の数値目標の概要でございます。この指針に定めた施策の方向性や目標に基づきまして、本県の観光振興指針を推進していくこととしております。

## 2 本県観光の現状と課題について

続きまして、次の4ページでございます、観光の現状と課題についてでございます。まず、宿泊者数の状況についてご説明をいたします。まずは、宿泊者数の状況についてでございますが、下の棒グラフ、直近の5年間における本県の延べ宿泊者数の推移と増減率を示したものでございます。濃いグレーの部分日本人、灰色のところ外国人という棒グラフになっておりまして、グラフの一番上の数字がその合計額、合計数字ということになっております。右から2番目の2019年のグラフをご覧ください。2019年は前年比で22%増の2,042万人泊と、初めて2,000万人泊を突破するなど、順調に推移しておりました。しかしながら、2020年1月以降における新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年は前年比で48.1%減の1,059万人泊と激減している状況となっております。また、外国人の延べ宿泊者数、灰色の部分でございますけれども、2019年は前年比26.6%増の426万人泊と顕著に増加していたところでございますけれども、これもコロナの感染拡大に伴う海外からの入国制限等の影響によりまして、2020年は対前年比85.4%減の62万人泊まで大幅に減少している状況でございます。このように、新型コロナの影響により本県の宿泊施設は激減している状況であることから、国内外からの観光客をコロナ禍以前の状態に戻すための取り組みを実施していくことが、喫緊の課題ということになっております。

続きまして、次の5ページをお願いいたします。外国人の延べ宿泊者数の国、地域別構成比でございます。今回お示ししているグラフにつきましては2018年のものとなっております。理由といたしましては、2019年は、日韓情勢の変化による影響、それから2020年はコロナ感染拡大の影響を受け、通常時ベースの分析ができないためでございます。ご了承いただければと思います。それで、下の円のグラフは外国人の延べ宿泊者数の国、地域別構成

比を示しております。左側が本県の状況になります。上位から韓国が 49%、台湾が 14%、中国が 12%、香港 11%、東南アジア 5%、欧米豪 4%ということになっております。右側の円グラフをご覧ください。これは全国の状況ということになりますけれども、韓国を見ていただきますと、15%ということになっております。本県の韓国の割合が極端に多くなっているのが分かります。一方で、中国や欧米豪、東南アジアの割合は、本県は全国の数値と比べて低い状況になっているというような状況が見て取れます。

続きまして、6 ページをお願いいたします。外国人の入国者数についてでございます。左側の表が本県のもの、右側の表が全国のもので直近 5 年間における外国人入国者数の推移と増減率を示しているところでございます。本県の外国人入国者数の合計、左側の表の一番上の数字、ブルーで示しているところでございます。2017 年までは 20%を超える伸びで、順調に拡大してきたところでございますけれども、2018 年については、豪雨災害や観光経済の低迷による旅行需要の低下、また中国のクルーズマーケットの競争が過熱化したことにより、中国からのクルーズの寄港数が減少したことなどを要因に前年比 3%増、伸びが鈍化しております。また、2019 年につきましては、日韓情勢の変化に韓国からの入国者数が大幅に減少したことにより、対前年比で 13%の減、(赤いところ)となっております。また、2020 年につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う海外からの入国制限により、88%減と、皆減に近い状況ということになっております。

次に旅行消費額について、7 ページをお願いいたします。

左側のグラフは、本県の旅行消費額における直近 5 年間の推移と増減率でございます。旅行消費額の全体、1 番上の数字をみますと、2016 年から 17 年は 10%近い伸びで順調に拡大しておりました。2018 年は 2.8%減となったものの 2019 年は 7.4%の増となっております。直近の 2020 年についてはコロナの影響によりまして、外国人旅行者による消費額の統計は国が調査を中止していることから、全国の消費額をお示しすることができません。日本人の旅行者にかかる消費額につきましては、前年比で 2020 年は 62.7%の減となっております。また右側の表は、訪日外国人旅行者数が多い主要の 20 カ国の旅行消費額について、上から全国の消費額が高い順に並べたものとなっております。中国や台湾、アメリカなど全国的には旅行消費額が大きい国でも、本県においては消費額が小さくなっているような状況があります。これらの国は日本における市場規模が大きい一方で本県に旅行者を十分に取り込めていない状況があることが分かります。

次に観光客の県内各地への訪問状況についてでございます。8 ページになります。下の表は、携帯電話の基地局情報、モバイル空間統計を活用して把握したデータをベースに整理をしております。来訪者と宿泊者の地区別の分布状況でございます。左側が来訪者、右側が宿泊者ということになります。来訪者については、福岡地区で約 65%、北九州地区で約 17%となっております。両地区で全体の 82%を占めております。また宿泊者、右側でございますけれども、福岡地区 66%、北九州地区約 18%ということになっておりまして、この両地区で 84%という状況になります。来訪者と宿泊者がともに、都市部、特に福岡市に集中している状況が見て取れるグラフになっております。

続きまして 9 ページをお願いいたします。宿泊施設の状況についてでございます。左の表は、県内地区別の宿泊施設数と客室数を示したものとなります。県内の宿泊施設数は、2021 年 3 月末時点で、左の表の左から 2 番目の宿泊施設数を見ていただきますと、一番下、県合計で 1,603 施設ということになります。また、その 1 番上を見ていただきますと、政令

市で 945 施設となっております、59%が政令市に集中しているというような状況となっております。また、その右側でございますけれども、客室数につきましても、全体の 76%が政令市に集中しているという状況になります。

また、右側の表は、旅館業法許可施設における客室稼働率について、全国及び上位 10 都道府県における直近 5 年間の推移を示したものでございます。コロナ前である 2019 年、右から 2 列目の状況を見ますと、本県の稼働率は 71.7%となっております、その上、東京都 79.5%、大阪府が 79%に次いで、本県は全国 3 位と非常に高い水準であることが分かります。特に福岡市の稼働率は 79.6%と、県全域の稼働率を押し上げていると思われまます。しかしながら、2020 年における本県の客室稼働率はコロナの影響により大幅に減少し 35.9%ということで、宿泊産業は深刻な影響を受けている状況となっております。

### 3 コロナ感染拡大の状況を踏まえた県の観光振興の方向性

続きまして、次ページ、10 ページでございます。コロナ感染拡大の状況を踏まえた県の観光振興の方向性でございます。冒頭、第二次観光振興指針というのは、コロナがちょうど始まったころに策定をしたものということで、ご説明をさせていただきました。途中でコロナという未曾有の危機、災害が起こったわけございまして、それに合わせまして、1.感染防止対策の徹底、衛生情報の発信、2.デジタルプロモーションの加速化、3.観光需要回復のカギを握る日本人の国内旅行を喚起していくという、この 3 つの取り組み、方向性をもって、コロナ禍における取り組みを進めてきたというところでございます。

参考までに、下の方に本県における新型コロナウイルス感染症の新規陽性者数の推移というグラフを掲載させていただいております。ほとんど全国と同じような状況で、東京、大阪と変わらない状況で推移しているかと思えます。その中で、ピンク色で示している部分が、冒頭、局長の挨拶の中でもありました、福岡県における緊急事態宣言措置が講じられた期間でございます。一番右のピンクのところでは、日にちが書いてございませませんが、ここの部分は 8 月 20 日から 9 月 30 日までが、福岡県における緊急事態宣言措置が講じられた期間ということになっております。ちなみに黄色のところは、福岡県が独自に設定しております、福岡コロナ警報もしくは福岡コロナ特別警報の発出期間でございます。基本的に黄色、ピンクの期間は誘客活動、いわゆる宿泊助成のキャンペーンなどは実施をしていない期間になります。

### 4 令和 3 年度における主な観光関連事業について

続きまして、次ページ、11 ページ目でございます。令和 3 年度における主な観光関連事業についてでございます。この事業につきましては、観光振興指針の 4 つの施策の柱をベースに整理をさせていただいております。

まず、受入環境の充実です。観光客の受入環境を整備するため、旅館やホテル等が実施するバリアフリー化や多言語案内などの施設整備や、感染防止対策、ワーケーションスペースの整備について支援を行っております。また、外国人観光客と宿泊施設をはじめとした観光関連施設等との円滑なコミュニケーションを支援するために、多言語での対応をするコールセンターを運営しております。

それから 2 番目、観光資源の魅力向上でございます。市町村や観光協会、経済団体などと連携した観光地域づくりを推進しており、県内 4 地域に設定した広域観光エリアにおいて、

コンセプトやテーマ、ターゲットを設定した上で、そのテーマに沿った体験プログラムの掘り起こしや磨き上げを行っております。また、それらを用いまして、旅行商品の造成、ハード面での受入体制の充実を図るための施設整備に対する助成なども行っております。それから、県内統一的なテーマ設定による資源開発と商品造成を支援してありまして、来年度、久留米市に新設される予定となっております、資生堂の工場の建設を契機とした「ヘルス&ビューティー」、美と健康というテーマでの新たな観光エリアの創出や「グリーンツーリズム」、「サイクルツーリズム」の推進を図っていくことをしております。なお、サイクルツーリズムについては、県内のみならず、九州・山口各県とも連携しまして、広域的なサイクリングルートについても、整備をしていく予定としております。

次ページ、12 ページ目でございます。効果的な情報発信といたしましては、福岡の避密の旅観光キャンペーンを実施しております。1人1泊あたり最大5,000円の宿泊助成を行ったり、また、レンタカー代やタクシー代の割引なども実施して、需要の喚起を行っております。9月30日に緊急事態宣言、10月14日に福岡コロナ警報が解除されましたので、15日からキャンペーン再開しているというような状況でございます。

それから、修学旅行の誘致につきましても、本来であれば県外の学校からの誘客の支援でありますけれども、県内外、県内の学校も含めたところで、修学旅行のバス代金の助成を行っているところでございます。

さらに、国内からの誘客プロモーションといたしまして、女優の今田美桜さんを起用した本県の観光をPRする動画によるプロモーションを行っております。

また、インバウンドの需要回復を見据えたプロモーションといたしまして、東アジアをターゲットとして、福岡空港、北九州空港など、航空会社と連携といたしまして、コロナの状況、運航再開状況も踏まえながら、プロモーションを実施していく予定としております。

次に観光振興の体制強化でございます。地域の観光地域づくりにおける司令塔を担うDMO法人の登録を加速させるため、専門人材の育成や登録に向けた課題解決の支援を行うためのワンストップ窓口の開設や、専門家の派遣を行っております。

また、豪雨災害により被災したJR日田彦山線沿線地域の振興を支援するため、沿線自治体である東峰村や添田町の地域振興の取組や観光地域づくりを担う人材、団体の育成等を支援しているところでございます。

## 5 宿泊税について

続きまして、次ページ、13 ページ目になります。宿泊税についてでございます。本県は観光振興を行うための特別財源といたしまして、2020年4月、昨年、令和2年度から、宿泊税を導入しているところでございます。税率といたしましては、宿泊者1人1泊につき200円、ただし、宿泊に対して税を課す市町村がある場合は、当該市町村内に所在する宿泊施設の宿泊について、1人1泊につき100円ということにしております。政令市、福岡市、北九州市については特例といたしまして、宿泊者1人1泊につき200円の場合、県税になるのが50円、政令市が150円という形で、右の表を見ていただきますと分かるとおり、それぞれの役割に応じて税率を変えているというようなところでございます。4番目、税収見込み額といたしましては、今年度の当初予算ベースで約8億円でございます。なお、税収の使途といたしましては、県が主体的に行う施策といたしまして、広域的な観点からの観光振興施策、観光地域づくりの核となる組織体制の強化を進めることとしております。また、市

町村への財政的支援ということで、市町村が創意工夫を凝らした観光施策を実施できるよう、自由度の高い交付金を交付することとしております。

資料4の説明は以上でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

(会長)

事務局から議題4の説明がございました。事務局の説明を踏まえて、委員の皆様から、自己紹介を兼ねて、県の取り組みに関する所感を述べていただければと思います。その後、委員同士における自由な意見交換という形で議論を進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

<異議なし>

それでは、1人2分を目途にご発言をお願いできればと思います。

それではまず、最初は私から発言をさせていただきます。私は、全員と名刺交換をさせていただきましたけれども、福岡県観光連盟の会長でもございますが、本職は西鉄で社長を務めさせていただいております。私のキャリアは、西鉄と言えば、鉄道、バスですが、実は鉄道・バスは一切キャリアがございません。主に不動産の開発関係をずっとやっておりまして、その中でもホテルの開発を長く担当しておりまして、宿泊施設の西鉄インから始まる一連のシリーズ、最近ではソラリアホテルの海外展開ですとか、直近では札幌にもオープンさせたりなど、そういった仕事に携わってきましたので、ホテルという切り口から観光と非常に縁が深いものがございました。

今回、福岡県さんでも、このコロナ禍を受けて、避密の旅をはじめとして、まずはインバウンドがいなくなっていますので、そこにはないものねだりしてもしようがない、従って、日本国内のお客様を盛り上げて、周遊してもらおうしかないということで非常に効果的なタイミングで、施策を打っていただいているなと感じております。

併せて、福岡県内だけじゃなくて、やっぱり九州全体を周遊するところに魅力が倍加されると思っておりますので、服部知事はじめ、知事会でも連携していただいて、ブロック単位で助成を活用できるようにという取り組みも進めておられますので、非常にありがたいなと感じております。今後、コロナ前から、欧米のお客様を観光で九州にお招きするためにはどうすればよいか、長く滞在して自然と文化を楽しむというのが基本的な欧米のレジャーのスタイルだと聞いておりまして、たまたまコロナを受けて、まさに密を避けるということで自然を楽しむなどといったところに光が当たっている状況もございます。また、ワーケーションといった動きも進んでおりますので、福岡県全域を見渡すと、自然や文化にあふれたところがたくさんございます。今までは福岡市にゲートウェイという役割があるので、集中してしまうんですけども、そこを入口として、福岡県内各地の文化と自然を楽しむようなことを、ぜひアピールしていくような施策、それをどのように情報発信していくのかがまずは大事ななと感じている次第でございます。観光連盟でも、プロモーション関係を、そういった形でしっかりとやっていきたいと考えておりますので、県もぜひ、ご一緒に進めて頂ければと思っております。

次に副会長、お願いできますでしょうか。

(副会長)

私は九州産業大学地域共創学部観光学科に所属しておりまして、観光の中でも専門は、観

光者の心理行動を分析して、それをマーケティングにどう活かしていくかということをやっております。今回、コロナ渦ということで、私自身もすでにやっていた研究なども随分方向転換するようなこともありました。その中で、旅行者の心理とか行動について、いろいろと調査も行って分析などもやりました。九州でのコロナ渦における観光行動を調査した時に、1点、私の調査でも明らかになったのは、旅行好きな人とそうでない人の差が激しくなっている。旅行好きの方はやっぱり行動や意欲が衰えずに、どんどん旅行しておられて、そうでない方は、今行かなくてもいいやとなっているということで、そこから言えるのが、目の肥えた旅行好きの人たちに、今どういうアプローチができるのかっていう、戦略的なことを、企画であるとか、いろんなキャンペーンなども考えてく必要があるのではないかということ。また、コロナ渦において旅行行動心理なども変わってきています。今回の報告にもあったように、デジタルツールがキーワードになっているかと思うんですけども、コロナ渦とは別にそのデジタルツールに対する人々の消費者の態度というのが、世代間によって本当に違っていて、世代によってもかなり細かいところで大きな違いがあるということを実感しております。

ということで、結局このように旅行者の行動というのがすごく変化して、変化が激しくなっている中で、分析調査とかデータに基づいた戦略というのは是非設置していただければなと思っております。今回、データに基づいたということがキーワードで出ておりましたので、そのあたりお願いしたいと思っております。以上です。

(会長)

ありがとうございます。このあとは、名簿の順番でお願いしたいと思います。

(委員)

私は八女市役所の観光振興課長をしております。DMOのFM八女で理事をさせていただいておるところです。先ほど県の観光政策課長から説明がありましたように、国内どこにおいても、コロナ渦において観光客が非常に少なくなっている中で、県として、この3ページの資料にあるように、副会長も言われましたけれども、デジタルマーケティングにウェイトを置く必要があるのではないのかなという中で、SNSのフォロワー数が当初の予定よりも大きく、目標が令和5年26万人というところが、現時点で29万人という成果を出されているということは、今後ここを強化する必要があるのではないかなと、私も考えたところでございます。

FM八女の観光案内所でも、昨日何か月振りかにか外国人観光客がお見えになりまして、しつこいようにいろんな話を聞かせていただいたわけですが、それでもようやくコロナが落ち着いたと思ったころ、先ほどの局長の話ではないですが、外国人の旅行者が来なくなるのではないかと心配をしているところもあります。ただ、局長の話の中にもありました、選ばれる観光地として八女を位置づけるためにも、重要なポイントとなっていくのではないかなと非常に思ったところです。

今後、県の観光事業の新しい取組として、ワーケーションに関することとか、いろいろ入っておりますので、これにつきましても八女では、先月、NTTさん、タイミーさん、JALさん、あとは近畿日本ツーリストさんと、ワーケーションのモニターツアーの取組も実際やっておりますので、こういうことを県と今後連携していきながら事業が進められればいい

かなと思って説明を聞かせていただきました。コロナ渦においてはと言うものの、デジタルマーケティングに力を入れていきながら進めていけたらいいかなと思います。2年間よろしく願いいたします。

(委員)

こんにちは、お世話になります。私は宿泊業界ということで、旅館ホテル生活衛生同業組合の理事長を仰せつかっております。また、林田会長と一緒に観光連盟の役で御一緒させていただいております。ありがとうございます。

先ほどから林田会長がおっしゃる通りで、私も本当に共感をしています。

福岡県の施策としては、今観光政策課長がお話しされたとおり、避密の旅とか、たくさんの県内の我々宿泊事業者及び交通事業者等々、ご支援いただいている、いわゆる県民割をしっかりと推進していただいていることに対して、本当に助かっているなという実感でございます。同時に今年は、今、局長の挨拶にもありましたように、本当に緊急事態とか、10月まで約3分の2、200日近く何らかの形で足かせというか、自粛というか、そういった日々が続き、我々旅館ホテルの業界、そして飲食業界の皆様ともいろいろ話す中で、大変厳しい1年だったと思っております。そして今、林田会長がおっしゃったとおり、我々の業界団体、旅館ホテル組合や日本旅館協会などの団体の方々と、JRさん、九州観光推進機構さんの唐池会長に先日お会いしまして、先ほどの林田会長のご挨拶にもありましたとおり、今度はブロックでやっていこう、というような取組もあるということです。たまたま本日、私たちの仲間が岸田総理に少しお時間をいただいて、GoTo トラベルの検討を東京で話していると思えますけれども、局長がおっしゃいましたように1月末とか、業界としては12月からやってくれということ強く要望しておりましたけれども、オミクロン株の話とか出ましたので国もちょっと様子を見て来年から、となっているのかなと思います。

また、地元の原鶴温泉、朝倉市ですが、九州北部豪雨から来年で5年目になります。特に9ページ、宿泊税導入に関して、先日亡くなられた小川知事さんといろいろ議論させていただいて、我々の業界も厳しいながらもこの宿泊税にご協力させていただいていますが、政令市の北九州市、福岡市に、圧倒的にホテルの件数が偏っているなと思いますけれども、林田会長がおっしゃるとおり、県内のいろんな磨き上げによって、福岡県においては、その他の市町村をしっかりとご支援いただいて、福岡の魅力を今一度磨き上げていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

(委員)

公益財団法人日本交通公社に所属しております。普段はシンクタンクということで、国、それから地方自治体からの観光とか旅行に関する調査を受託しているのと、自主財源を活用した自主研究を行っています。普段は旅行市場とか経済効果とかを主な領域としております。コロナになりましてこういった調査、先ほど副会長からもありましたけれども、やはり調査というものもコロナ関連のものが増えてまいりまして、我々も自主研究の一環として、日本政策投資銀行さんと我々とでアジア欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査ということで、コロナ渦における外国人の訪日旅行に対する意識を、コロナになってから3回ほど実施しています。

この資料を拝見した感想ですけれども、KPIの部分について非常に細かく設定されてい

て素晴らしいなと思いましたが、外国人に関してはかなり細かく設定されているんですけども、先ほど局長のご挨拶にもありましたように、UNWTO（国連世界観光機関）の予想からしても数年間はインバウンド市場は戻らないということで、この計画期間内に県の観光を支えるのは、やはり日本人の旅行市場だと思うんですね。そうなったときに今、日本人は旅行消費額のみ数字として挙げられていますが、旅行消費額は人数と単価の掛け算ですので、この人数をどうするのか、単価をどうするのかというのをもっと細かく議論した上で、回復に向けた KPI を設定したり、傾向を把握することが重要だと思います。その辺り、可能であればご検討いただければと思った次第です。以上になります。よろしくお願いいたします。

（委員）

この度、オンラインでの参加となっておりますが、私は地方自治体や中央省庁のデジタル化をサポートしております。

仕事の 7 割くらいは地方自治体をサポートしていて、福岡県もサポートをさせていただいています。どういう風にしたら福岡県の魅力がより多くの人に伝わるのか、日々、サポートをさせていただいているという立場です。デジタルのソリューションを持っている会社なので、その知見をこの審議会では活かしていければと思っております。特に資料を拝見していて、コロナ禍でどういう部分で魅力の訴求を打ったら良いのかが分からないとか、適切な訴求時期ですね、今やってしまったら炎上するのではないかとか、行政である以上、今来てくださいとは言いつらいのではないかとこの部分もあったと思うのですが、先が見えない中でのデジタル活用に取り組みされる中での、悩みがあるようにお見受けしておりました。

コロナ禍では、デジタル化にシフトするチャンスと捉えておられる点に関しては素晴らしいなと思っていて、これを実践できる地域とできない地域とは、見ていても大きく分かります。できない地域に関しては、スポットスポットのキャンペーンで、デジタルを少し使ってみようという程度に留まってしまふ。今後に向けて、是非デジタルソリューションに関するルール化をまずは観光部署で進めていけたらと思っていて、例えば、広報する際に、旅行好きの人と旅行好きでない人と、かなり対応に違いがあるとお話がありましたが、別々の人に違ったコミュニケーションをしていくということがデジタルではできるので、今後のルールとしては、いくつかの属性別に分けて魅力の伝達をしていきたいと思いますというルールを作っていくとか、JNTO（日本政府観光局）のように、何かキャンペーンを走らせる際に、事業としてこの数字を追っていきましょうという KPI を、かなり細かく設定することをルール化するなど決めていかれると良いかと思えます。例えば、観光であれば、プロモーションの後に福岡県に来るとというのが一番最後の KPI（目標）だと思うのですが、ここだけを追ってしまうと、ちょっとしたキャンペーンを打った時に、劇的に来訪者数が変わるかという、なかなか直結しないことが多いので、その一つ手前の、ホームページの来訪者数が増えたらいいんだっけとか、その他、いろいろと置くことができる KPI 指標があるので、もう少し細かく KPI をいくつか設定していったら、毎年追っかけていきたいと思いますというところを、ルールとして持っておかれたらいいのかなと思いました。この施策に関しては、継続してこういう施策を回して、次の年はこういう風に改善していこうというところを毎年毎年追っていけるような、体制作りだったりとかルール作りをされるといいなと思っていた

ので、是非そこは、この審議会で議論できたらいいのかなと思っていました。

簡単にはなりますが、継続したデジタル化をできるようになるのが一番重要だと思うので、ちょっと試してみるのではなくて、ルール化してしっかりとデジタルが活用されていくという循環が作れるような議論ができればと思います。

(委員)

皆さんこんにちは。JR九州で博多駅長をやっております。よろしくお願いいたします。

実は、博多駅長に就任しましたのが今年の5月からでございます、その前は、お土産の事業ですとか、小売りのJR九州リテールというところで専門店事業本部長という役職をやっております。実は、それもほんの3年弱でして、その前は経営企画とか財務とかを専門としてやっておりましたので、観光は新しい世界だなというところがございます。

先ほどのご説明を受けて、重複するかもしれませんが、大きく分けて、やはり日本人とインバウンドと分かれると思っております。私もお土産物という視点からいろいろと日本人の指標を見ておりましたけれども、福岡に観光で来られる、もしくは九州に観光で来られるお客様、福岡は特にだと思っておりますが、イベントに非常に頼っていたところがあったなど。イベントの有りや無しやで、お土産は非常に売り上げが変わってまいりました。ですので、イベント頼みのところがあって、基本的な観光素材といったものが、福岡はまだまだ磨かれてないのではないかなと感じてまいりました。

そこでコロナということで、イベントが非常に打ちづらい現在ですので、これは良いチャンスだと捉えて、福岡の素材を磨くということをやって、まずは、日本人のお客様に多く来ていただくということに努力すべきかなと考えております。

それからインバウンドですけれども、本当にいろんな情勢に大きく左右されるということなので、しかも、1~2年、3年というふうになりますと、少し弱く見がちではありますが、今はタマ込めの時期なのかなと思っておりますので、少しずつプロモーションだとか、私どもも再開していかなくては、と考えているところでございます。

あと、オンラインですね。富裕層向けオンラインツアーというものを書いておられましたけど、私どももJR九州博多駅として、オンラインツアーですとか、オンラインオークションとか、今やらせていただいています。オンラインだと実際には来ていただけないので、売り上げにはつながりにくいんですけど、行きたいよというコメントを、私自身MCをやっていますけれども、たくさんそういうことを言っていただけますので、オンラインを通じて、魅力をどんどんリアルに繋げて、オンラインとリアルを継続して繋げていくことは、非常に有効なのではないかと思っております。

そういった面から皆様と一緒に勉強させていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

(委員)

僕は福岡県八女市で、うなぎの寝床という会社をやっているのですが、元々は2012年に物販の会社から始めて、まず九州・筑後のいろいろな良い物を伝えようということで始めました。8年ぐらい物販だったり、久留米餅のモンペだったりメーカーをやってきて、全国に卸したりしてきたんですけど、やっぱり物の売り買いだけでは、地域の魅力はなかなか伝わらないということで、2019年に旅行業の二種を取得しまして、ツーリズムの会社を作りま

した。そして今年の10月に「Craft Inn 手（クラフト・イン・て）」という、九州の作り手の人たちの技術を使いながら、八女の町屋を直して、宿を作るということをやって、お店という拠点から、店に来てもらって、モノを宿で体感してもらい、そこから先のツーリズムを作る。雑誌（Travel UNA）なども日本語・英語で作ってるので、情報発信もそれに絡めながら、ちゃんと来てもらうってことをやろうとしています。

僕はここにも伝統工芸として分野を書いているのですが、テーマ型ツーリズムの醸成みたいなことを、ちゃんとやらないといけないなと思っています。新潟とか、福井とかではオープンファクトリーとかを進めていて、各作り手だったりがどンドン店を開いていきながら、体験だったり製造工程を開いて、ちゃんとお金を取っていくということをやっています。作り手も物を作るだけでは、なかなか食べていくのが難しくなっているの、プロセスを開いたり、交流することでちゃんとお金を得ていくっていう手段を今後取っていかないと伝統工芸だったり、ものづくり、地域資源も、農業と同じですけど、難しくなっていくのかなと思っています。

それで11ページの2の観光資源の魅力向上のテーマ設定による資源開発と商品造成の支援を書いていますけど、筑豊地域だったり、筑後地域だったりをちゃんと掘り起こせば、かなりテーマ性が見えてくるかと思っていて、その掘り下げをしっかりとしながら、地域事業者の人たちが意外に価格設定をちゃんとできないとか、どういうサービスにどのくらいお金がかかるかっていうのをちゃんと理解されてない方も多いので、その辺をしっかりと支援しながら受け皿を作っていくことをすれば、筑豊・筑後だったり、政令市ではないところに人が流せるんじゃないかなと思って、僕たちは地域のプレーヤー側としても、それをやらないといけないと思うし、政策としてもその辺を盛り込んでいただけたら、より地域資源の掘り起こしができるのではないかなと思いました。

（委員）

私は三井住友銀行で地方創生の旗振りをやっております、その中の大きな1つが観光ということになっております。平日5日間のうち4日は出張して、土日は旅行好きの妻のために旅行するというような生活を送っております、家に帰って、卵かけご飯とか食べたいなみたいな、そんな状況になっております。

福岡県の観光との関わりというのは、西鉄さんと一緒にやらさせていただいた太宰府の古民家を活用して、分散型のホテルを作っていくといったことから、スタートしまして、私のやった仕事というのは天満宮に行ったり、地元の門前の方とお酒を飲んで融和させて、外から来たプレーヤーをうまく馴染ませてくということをやっております、だいぶお腹も膨らんでしまいました。

福岡県への期待ということ、全国で活動している目線で申し上げますと、観光地は一番そのエリアで強いところを更に強くして、周辺にあるコンテンツと繋げて波及効果を大きくしていくのが一番効果が出やすいというか、近道だと思っています。市町村単位でご相談を受けると、そのエリアで一番に近いものを磨くことができないとか、公平性とか、弱者救済みたいな世界で、またそこにお金を投じるのかみたいな話になって、うまくそういうことができず、満遍なくやる形になりがちです。そこで、我々はそういう時に、西鉄さんとかJRさんとか人の動きに合わせて交通網を持っているところにご相談をして、行政に働きかけていくという動きをするのですけれども、県庁であれば、市町村の行政区は越えられますし、

現に今、英彦山で一緒にさせていただいておりますけれども、強いものを磨いて、周辺にあるコンテンツを繋げていこうと県庁が旗振りをされており、非常に良いなと思っております。

コロナ以降の動きですが、今我々が注目しているのは、都市部から1時間とか1時間半圏内で、都会から移動して初めて大自然が出てくるところに注目しております。東京でいうと秩父のようなところに注目しております。そのコンテンツを磨いて、周辺と繋げていくということを行っている最中でございます。

福岡は都市部があって、交通も外から入ってくるアクセスが便利で、すぐ行くと自然があるということですし、寒い地域の方に比べてオープンな気質でもありますので、非常に強い地域だなと思っております。よろしく願いいたします。

(委員)

私はリクルートで宿泊情報誌じゃらん、じゃらんnetを運営させていただいているので、そちらのイメージが強いかと思うのですが、この4月から、九州7県の地域行政の担当組織をやらせていただいております。その中で、福岡県とはまさに効果的な情報発信ということで、福岡の避密の旅キャンペーン、そして、4の観光振興の体制強化ということで、日田彦山線沿線の地域振興の支援で、東峰村で関わらせていただいております。

今、お話しいただいたところで言いますと、8ページ観光客の県内各地への訪問状況について、福岡地区と北九州地区を訪れた8割を、他の県内にどれだけ周遊させられるかということが、非常に大事だと思っております。そして、データを今持ち合わせておりませんが、我々が定点で確認しているものでも、福岡県で言いますと、食に関してお金を落とすことはデータ上、見えているのですが、体験に関してはお金があまり落ちてないということがあって、その辺りの体験開発が非常に重要だと思っております。というのが、私が4月に着任する前の2年間は、じゃらん遊び体験という、着地事業の営業責任者をしておりまして、その頃から、このコロナ禍においても体験事業は非常に好調でして、コロナが拡大した2020年の3月ぐらいから、さすがに数字は落ちたのですが、実は2020年の6月以降、1回も体験の予約は昨年対比落ちていません。今、宿泊はなかなか戻ってきてないのですが、体験自体はこのコロナ禍においては力強く、予約が入っているので、その部分も鑑みて、短期的な立ち上がりというところで、訪問の周遊化に取り組めたら良いのではないかなと思えました。これからよろしく願いいたします。

(委員)

資料4に関して、インバウンド誘客という視点から意見を申し上げます。コロナ前は韓国からの観光客がたくさん来ていましたが、政治的な理由があり、減少していました。インバウンドで、欧米の人も来ていましたが、とはいえまだまだ身近な東アジアの方が多くいらっしゃる県として、東アジアのマーケットの中でどういう配分で深掘りしていくかが大事だと思います。オール九州の中で福岡県が担う位置づけや役割といった話の議論をもう少し深めていくといいと思います。資源の魅力向上がマーケットに応じてどういったことを作っていくかも重要です。魅力向上について、サイクルツーリズムが入っていますが、大事なポイントだと思います。マーケットにあったサイクルツーリズムと、開発しているプログラムとのマッチングを詳細化していくことが必要だと思います。もう1点は、持続可能な

SDGs の必要な要素が指針に入っているかをチェックしてもいいと思う。オーバーツーリズムは人に来てもらうだけでなく、住民の満足度を上げるとか。産業連関、人が来たらどれだけ地域にポジティブな貢献があったかを見ていくことも大事だと思います。

(会長)

ありがとうございました。

それでは、欠席されている委員からお預かりしている意見がありましたら、事務局からご紹介願えますか。

(事務局)

欠席されている委員からのご意見はございません。

(会長)

ありがとうございました。委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。それでは、これらの意見または事務局からの説明を含めて、ご意見ご質問等がございましたら発言ください。

## **議題 5 福岡県次期総合計画において展開する観光振興施策の方向性について (資料 5)**

(会長)

続きまして、議題 5 に移ります。事務局から議題 5 「福岡県次期総合計画において展開する観光振興施策の方向性について」の説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、資料 5 に基づき説明します。「福岡県次期総合計画において展開する観光振興施策の方向性について」です。

方向性① ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた観光産業の高付加価値化

1 ページをお願いします。方向性といたしまして、「ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた観光産業の高付加価値化」についてです。コロナ感染拡大を受け、地域の観光業は非常に深刻な影響を受けている状況でございます。今後、コロナ後の需要回復を確実に取り込むために、ウィズコロナ、ポストコロナを見据えた受入環境の充実とともに、観光産業の生産性・収益性の向上を図る必要があると考えております。

今後の施策の方向性といたしましては、本県の観光産業の高付加価値を推進するために、観光産業の生産性の向上、収益性の向上ということで、例えば宿泊事業者への専門家の派遣や、三密を避けるための新たな旅のスタイルへの対応を行うといった方向性で、事業を考えていきたいと考えております。また、新たな事業展開の支援ということで、古民家や宿坊などの個性ある宿泊施設の整備や体験プログラムといった、委員の皆様からもご指摘いただいたものに対する整備の支援を行っていきたいと考えています。

誰もが快適に観光できる基盤整備といたしまして、まだ先かもしれませんが外国人旅行

者がストレスなく旅行を楽しめる環境の整備に取り組んでいきたいと考えております。

#### 方向性② 広域ルートの設定・新たな観光エリアの創出による旅行消費の拡大

それから、次の 2 ページでございます。「広域ルートの設定・新たな観光エリアの創出による旅行消費の拡大」でございます。

先ほど委員から指摘がございました。イベントで人が集まらないとお土産が売れないといったお話もございましたが、そういった課題を我々も認識しておりまして、まさにそういった新たな魅力を作り出す取り組みが必要ではないか、と考えております。また、コロナ感染拡大を受けまして、会長から三密を避ける観点が必要であるというご指摘もいただきました。今後の施策の方向性として、魅力ある観光資源の発掘、磨き上げをしっかりと行っていきたいと考えております。

既存の事業もそうですし、既存ではない、満遍なくということがいいのかどうかということについて議論の余地があるかと思えますけれども、県内各地を周遊していただくために新たなエリアを作っていく取り組みを進めてまいりたいと思っております。また、来ていただくだけでは駄目ですので、旅行消費の拡大、お金を落とさせていただくための体験交流滞在型観光の推進をしていきたいと思っております。

それから 3 つ目は旅行者の安全安心で快適な受け入れ環境整備を引き続き進めてまいりたいと考えております。

#### 方向性③ デジタルマーケティングの強化

それから 3 ページです。「デジタルマーケティングの強化」でございます。我々もこの必要性は非常に感じておりますが、専門的な分野でもありますし、皆様方からの知見をいただきながら事業を進めていく必要があると考えておりますけれども、今の時点の方向性といたしましては、SNS 等を活用したプロモーションの推進とターゲットに合わせた情報発信、デジタルデータの分析活用ということでございます。ターゲットは、どこらへんに細分化して、どういった情報を流すのかというのが大切な部分になろうかと思えますし、また、情報を流した後の分析が非常に大切になってくると思っております。デジタルマーケティング、デジタルの継続性という言葉も先ほどいただきましたけれども、そういった視点で我々もしっかりとデジタルを活用した PDCA サイクルを回しながら、しっかりとした事業の取り組みを進めてまいりたいと考えているところでございます。

#### 方向性④ マーケティングに基づく戦略的な国内外からの誘客・県内周遊の促進

それから 4 ページの「マーケティングに基づく戦略的な国内外からの誘客・県内周遊の促進」でございます。まずはコロナで落ち込んだ需要をとにかく回復させる必要がある一方で、インバウンドはいつ、どのように回復するか分からないので、まずは国内の需要喚起が大切だと考えておりますけれども、そういった中で、観光事業者、県内市町村と連携した広域周遊の促進、地域の磨き上げも含め、皆様と連携しながらやっていきたいと思えます。それから、県内だけでなく、九州という視点で、特にインバウンドを誘客する時に必要になってくる要素かと思えますが、九州一体となった誘客の促進。それからターゲットに合わせた情報発信、インバウンドを考えますと国際路線の誘致も必要になってきます。こういったものを国際情勢、社会情勢を見極めながら進めてまいりたいと思っております。

## 方向性⑤ 観光人材の育成、観光組織体制の強化

それから5ページ、「観光人材の育成、観光組織体制の強化」でございます。

これにつきましては、持続可能な観光先進県ということで先程 KPI の話がございましたが、まずは持続可能な観光を進めていくためにはそれぞれにおいて、観光推進する人材というのが最も大切になるかと思っています。人材の育成、それから観光組織体制の強化を図ることで持続可能な観光を目指してまいりたいと考えております。具体的な施策の方向性といたしましては、各地域の観光を支える人づくり、それから県内の観光関連団体の機能強化、客観的なデータに基づく施策立案体制の確立、九州観光推進機構との連携、市町村と連携した観光振興を宿泊税を有効活用して行っていく、こういった取り組みにより観光振興を進めていきたいと考えているところでございます。事務局からの説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

(会長)

事務局から議題 5 の説明がございました。事務局の説明を踏まえまして、委員の皆様からご意見を頂きたいと思っております。次期総合計画は5年間の施策の方向性を示す計画になります。総合計画の審議は県の別の審議会で行われているところでございます。本審議会では、施策の方向性に基づき、具体的な施策や事業を実施するにあたってのアイデアをそれぞれの立場から出していただければと思います。

それでは、ご意見のある方は挙手の上、ご発言をお願いいたします。オンラインで参加されている方も挙手をしていただいでよろしいので、よろしくお願いいたします。

(委員)

先ほどの委員が言われていた体験の需要は僕らも結構感じています。工房を公開するだけだと体験にはなりませんし。富山の能作さんのように、鋳物で新たに設備投資を大きくしながら体験プログラムを継続的に自社事業としてやっている事例もあります。僕らもクラフトツーリズムとして、結構いろいろ作ってるんですけど、今の工房を公開してお金をいただくだけでなく、ある程度体験用だったり、ツーリズム用に設備投資を入れながら新たに施策をやっていくということも大事なのかなと思いました。その辺は、新たな観光エリアの創出による旅行消費の拡大の今後の方向性にある、魅力ある観光資源の発掘、磨き上げにあたるのかと思いますが、そういうところにも設備投資と合わせてやっていく可能性があるのかなと思って、先ほどの委員の話を伺ってました。

(委員)

設備投資となるとコストがかかるので難しいと思うんですが、私自身が今感じてるのは、体験よりも前の部分だと思っています。私も福岡県に限らず、九州をこの半年強で周遊していく中で結構目の当たりにしましたが、体験の造成の中で、観光協会に連絡して予約を取ることがよくありますが、それだとなかなか一般の観光客が予約できないと思っています。まずは、その各事業者さんが自ら受け入れられるような体制を作っていくと活発になっていくのではないかと感じております。その中で体験事業者さんがネット予約に関してすごく後ろ向きになられている場合があります。でも、今マーケットでは、このコロナ渦

で直近 2 日目の予約が約 3 割を占めるという状況になっています。逆に言うと体験日の 2 日前まで受け付けていなかった場合は、予約の 3 割を自動的に捨てていることになります。そういった意味で言うと設備投資の前に、まずはそういった施策の自走化を地域を挙げて取り組めると地域の活性化につながると思います。

(委員)

能作さんすごいですよね、日本でもトップクラスの工房かなと思います。私、旅をして工房を巡ったりするのが好きなんですけれど、例えば県の支援として、工房でやっていることをドラマチックに語れる人材を養成するというものも、すごくいいかなと思います。ガイドツアーだとか、受け入れ側の面白い方にしゃべってもらった経験が、次に誰かを連れて行きたくなることに繋がるような感覚を私は持っていて、そういう事業を立ち上げてもいいかなと思います。また、デジタルマーケティングについて書かれていますが、リピーターを捕まえる戦略があってもいいのかなと思います。福岡に来た方をもう一度捕まえるっていうのは、もしかしてこれはデジタルじゃなくて、旅館の女将さんが「今度は紅葉の季節だから来てください」という手紙を出すことなのかもしれませんけれども、そういった地元の方と触れ合った経験みたいなものを、何か人間的なもので残す取り組みも入れ込んでもいいのかなと思います。

(委員)

うちも実は体験プログラムには相当力を入れて事業を進めていったという経緯がございます。先ほどの委員が言われたように、投資する力も必要なんですが、今年度 FM 八女では、観光庁の高付加価値化の補助事業が 1 億数千万円ぐらい採択されておりまして、ハードに関しては 2 分の 1 補助でしたから、残りの 2 分の 1 を福岡県の宿泊税交付金で補填して事業を進めたという経緯があります。どこの自治体もだと思んですが、観光でお金を取ることを狙ってはいるけど、どうやっていいか分からない。そこの調整を福岡県のこの計画の中で進めていかれたらいいかなと思って、話を聞かせていただいたところです。また、お金がかかるところについては、先ほど言いましたように、もちろん福岡県の補助事業もありますが、県以外にも国の事業であったりとか、民間の団体だったりとか、文化庁だったりとか、いろんなところが今経済対策を出しておりますから、地域にある例えば DMO の候補法人や観光協会、コンベンション協会などと連携をするという、5 ページの今後の施策の方向性にある市町村と連携した観光振興についても、いろんな施設が補助事業を活用したら良いのではないかなと思って話を聞かせていただきました。

(会長)

ありがとうございました。

その他はございませんでしょうか。オンラインの方がいかがでしょうか。

(委員)

ありがとうございます。

まず全体的な話、先ほどの委員と共通するかもしれませんが、新たに作る総合計画の中で観光振興政策を考えたときに、福岡県だからこういう計画作らなきゃいけないというのが

あんまり見えないというか、名前変えたらどこの県でも書けそうな内容に見えて、もう少し掘り下げる必要があるんじゃないかと思います。あと、方向性⑤の観光人材の育成については、人材は大事ですが、内容が本質的なところでずれてないかなと気になりまして。指針の KPI に DMO 法人の数がありますけど、私自身、DMO の審議委員として全国 100 超あるうちの 30 件程を見えていますけど、観光庁もそれほど重要な政策として捉えてないのかなと思うんですけど、あんまり議論しないんですよ。それに、DMO ができたから人材が育成されるとか、マーケティングが強化されるとか、決してそうではないということが日本全国で起きていることをご認識いただければと思います。本質的に人材育成はマーケティングやマネジメントを強化しなきゃいけないんですが、DMO が県内にいくつできたから実現するというわけではないということが日本各地で起きています。本質的に地域の価値向上を目指す上では、若干ずれることがあることをご留意いただければと思います。

あとは、ボランティアガイドも書いていますが、時流で言えばプロフェッショナルガイドが重要視されていて、ボランティアガイドは観光客のためと言うより、住民の生きがい構築のようになっていて、満足度向上に直結せず、後継者不足にもなっている。ボランティアガイドを地域の高齢者対策として書くのはいいが、観光振興、高付加価値化の文脈とはずれる可能性があるんで、そのあたりを県として良い方向に向かうようにしていただきたい。県全体のことを理解できているわけではないが、新しい人たちが観光に関わっている状況もある。1人1泊30万円のプランを売っている宿もある。そういった民間プレーヤーの動きを県が把握して、支援していくことが人材の育成や高付加価値化につながっていくと思う。せっかく良いものがあるので、地域の人々が尖ってやれる、あるいは支援される仕組みを県として提供できると、より良いのではないかなと思います。

(会長)

ありがとうございます。

ご専門のデジタルマーケティングのところでご意見ございませんでしょうか。

(委員)

ありがとうございます。

方向性③デジタルマーケティングの強化で申しますと、強化していく方針は素晴らしいと思いますが、全国、世界を含めて全て強化していく方向で動いているので、具体的にどんな体制を作るんだっけとか、人材を登用するんだっけというところも含めて、具体的に構想していく方がいいかなと思いました。今取組んでいるのが、SNS だったり、ターゲットングだったり、データ分析しましょうだったりだと思うんですけど、なかなか専門人材でないとキャッチアップしていくのが難しいと思います。例えば DX 部署を作る自治体もありますが、外部から週一公務員みたいに副業として取り入れているところは都道府県や政令市でも結構ありますので、本格化の前にぜひ検討いただくのが良いかと思います。また、デジタル化を推し進めていくぞとなったときには、何となくではなく、何をやるか方針を明確にすると良いと思います。SNS をどう活用して PDCA を回すのか、それを誰がやるんだっけというところまで落とし込めるとより加速していくので、今からすぐ始めれば日本の最先端の取組をしている福岡県となっていくと思うので、デジタルマーケティングを実施する、SNS を活用する、だけではなく、具体的に何をやるかまで落とし込んでいくといいかなと

思います。

(会長)

ありがとうございました。

一通りご意見が出てきたのかなと思いますけれども、最後にこれだけは言っておきたいという事がございますか。

よろしゅうございますか、ありがとうございます。

それでは、欠席されている委員からお預かりした意見がありましたら、事務局からご紹介いただけますか。

(事務局)

特にございません。

(会長)

委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。

## 議題 6 その他

(会長)

では最後に、その他ということで事務局から何かあればお願いいたします。

(事務局)

次回の審議会の開催を 2 月頃と考えております。また、日程調整につきましてご相談させていただきたいと考えております。年内にはご案内させていただきたいと思っておりますので、その際にご回答のご協力をよろしくお願い申し上げます。以上です。

(会長)

ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、本日の審議회를終了いたします。議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しいたします。

## 閉会

(事務局)

林田会長ありがとうございました。また委員の皆様、大変ご熱心にご議論いただきまして、忌憚のないご意見を頂戴いたしました。どうもありがとうございます。

特に、福岡県の場合、福岡市がゲートウェイということで日本全国あるいは海外からも、一生懸命汗をかかなくても人が来てくださる、そういった恵まれた県だと思っております。その方々を、交通の便もようございますので、1 時間か 2 時間あれば福岡市から県内のいたるところに行けるという利便性も兼ね備えております。そうした中で本気になって素材を磨き上げるということ、そして磨くにあたっては行政だけではできません。民間の方をプレ

一ヤーとして一緒にやらせていただきながら、民間の方がどういったサービスを提供できるのか、また、それに対して私たちがどういった支援ができるのかといったことも、しっかりとコミュニケーションを取りながら、政策に活かしていきたいと思っております。次回の審議会の詳細につきましては、また事務局の方から別途資料を送らせていただいて、深い議論をさせていただきたいと思っております。また、引き続き、御支援の程、この審議会の場だけに限らず、直接ご意見を伺う機会も頂戴できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。本日はどうもありがとうございました。

以上